

習志野市

伝統と歴史が息づく
スポーツのまち、習志野

習志野市は、県北西部に位置する人口約18万人、市域約21km²の人口密度が高いコンパクトな市です。

日本を代表する2つのスポーツ文化に深く関わりがあります。

一つ目は相撲です。現在45部屋ある相撲部屋の一つが、本市鷺沼にあります。

阿武松部屋あぶのまつです。平成7年に部屋を構えてから、30年が経過しました。地域活性化や青少年育成に積極的に取り組まれ、子どもたちとの交流もあり、地域に根差した存在となっています。

阿武松部屋こそが本市ならではの地域資源であり、シティブロモーションには欠かせない存在であることから、連携の礎を確固たるものとするため、6月25日に大相撲を活用した魅力発信に関する協定を締結しました。

市制施行70周年を記念し製作した習志野和柄があしらわれた浴衣を仕立てていただきました。巡業先



やテレビで習志野和柄の浴衣を着た力士に注目してください。

二つ目は、野球です。谷津バラ園に隣接する谷津公園は、日本のプロ野球と読売巨人軍が産声を上げた記念すべき場所です。

昭和9年、ベールコースら全米大リーグ選抜を迎えるため、当時の谷津遊園球場に全日本チームが集結しました。このチームを母体として、のちの読売巨人軍である大日本東京野球倶楽部が結成されたことから、発祥の地とされています。



令和8年5月に記念碑周辺をリニューアルし、新しく名選手の手形やサイン、記念撮影ができるバッターボックス等を設置しました。



野球ファン必見です。春と秋のバラの開花時期にあわせて、足を運んでみませんか？

白井市

世代を超えた笑顔と豊かさを
未来へつなぐまち白井

白井市は、千葉県北西部に位置し、都心から約28kmの距離にあり、北総線を利用すれば都内主要駅や成田国際空港へダイレクトにつながるため、「ちょっと行こう」が無理なく叶う場所です。



特産品の梨は、全国でも有数の産地として知られており、栽培面積は千葉県内で1位です。

企業と創る、次世代のまち

令和8年度からスタートした「白井市第6次総合計画」では、企業誘致の強化に取り組んでいます。

本年4月には、NTTグループ4社と「白井市の地域活性化に関する包括連携協定」を締結しました。スマート農業の実証やデータセンター敷地近隣にこどもが遊べる遊具等を整備するなど、データセンター開発を契機として、「デジタルインフラ」農業「まちづくり」を軸に、地域活性化に向けたさまざまな取り組みを推進していきます。

特に、農業の後継者不足や高齢化により、遊休農地等の増加に対応するべ

く、分散した土地を集約し、農業法人を誘致する取り組みを推進しています。令和8年度には遊休農地等を活用して、ハウスでトマト栽培を行う大規模農業施設の建設を予定しています。この施設には、ICTを活用したスマート農業技術の導入も行い、持続可能で生産性の高い農地への転換を進めています。

交通ネットワークの再構築

本市も全国的な傾向と同様に少子高齢化が進展しており、特に今後、高齢化が急速に進行することが予想されています。

高齢者が運転免許証を返納しても、安心して住み慣れた地域で暮らしていくには、誰もが気軽に移動できる交通手段の確保が必要となりますが、運転手不足などの影響により、白井市でも路線バスの減便などが行われています。

このような中、鉄道や路線バスなどの既存の公共交通に、地域の実態に応じた新たな交通手段を組み合わせ、利便性の高い交通体系を構築していくため、本年9月よりオンデマンド交通の導入に向けた実証運行に取り組んでいます。

袖ケ浦市

自動運転が拓く
袖ケ浦市の新たな挑戦首都圏に近く豊かな自然と
暮らしやすさが調和するまち

袖ケ浦市は、東京湾アクアライン着岸地に隣接する交通利便性の高いまちです。また、臨海部には工業地帯が広がり、内陸部には里山や田園風景が残るなど、都市の利便性と豊かな自然が調和した住みやすい環境が魅力となり、子育て世代を中心に首都圏に近接しながら豊かな自然を感じられるまちとして注目されています。

未来の暮らしを支える
自動運転への挑戦

全国的に深刻化する運転手不足は、高速バスや路線バスの減便など地域公共交通にも大きな影響を及ぼしています。このような課題に対応するため、令和4年度からデマンド型乗合送迎サービス「チョイソコがうら」の運行を開始するなど、地域のニーズに応じた交通施策を展開してきました。このような取組に加え、持続可能な公共交通ネットワークの構築を目指す新たな施策として自動運転の導入に挑戦しています。

社会実装に向けた取組

本市が目指すのは、自動運転を実際の路線バスとして運行する「社会実装」です。令和10年度のレベル4の運行開始を目標とし、今年度は、袖ケ浦バスターミナルと袖ケ浦駅を結ぶ既存のバス路線において、レベル2による無償運行を実施します。市が主体となり、交通事業者等の関係機関と連携しながら、安全性や社会受容性を高め、社会実装に向け取り組みます。

「安心して暮らせるまち」を目指して

自動運転バスの導入は、移動手段を確保するだけではありません。交通結節点の機能強化や観光・商業施設へのアクセス向上、新たな周遊ルート形成など、地域の魅力をさらに高める可能性を秘めています。本市は、自動運転バスの社会実装を通じて、車がなくても「安心して暮らせるまち」を目指し、未来の公共交通モデルとなるよう挑戦を続けていきます。



車両イメージ

富里市

心ひとつに
未来に向かって飛び立つ
躍動のときとみさと

緑豊かな自然 すいかのまち「富里」

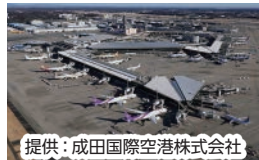
富里市は県北部に位置し、成田空港に隣接する人口約5万人の市です。豊かな自然と都心へのアクセスに恵まれ、基幹産業の農業を中心に発展してきました。中でも「富里すいか」は全国有数の産地として知られ、令和3年には、富里すいかの魅力を全国へ発信することを目的に「すいか条例」を制定し、すいかのまち「富里」を全国にアピールしました。

とみさと100年プロジェクトの
立ち上げ

大正15年から市内ですいか栽培が開始され、今年で100年という節目の年を迎えました。加えて、三菱社第三代社長・岩崎久彌氏が晩年を過ごした「旧岩崎家末廣別邸(国登録有形文化財)」の主屋が、令和9年2月に築後100年を迎えます。【富里すいか栽培開始100周年】と【旧岩崎家末廣別

空港機能強化を見据えた
持続的に発展するまちづくり

邸主屋築後100年の双方の節目の年を、市民の皆様とお祝いするとともに、市の歴史・文化及び魅力を広く発信するため、【とみさと100年プロジェクト】を立ち上げ、令和8年度は、節目の年である令和9年に向けて気運を高めてまいります。



提供：成田国際空港株式会社

成田空港の更なる機能強化を見据え、産業集積や企業誘致を促進しており、都市計画提案制度を活用した企業立地の受け皿拡充により、雇用創出と地域経済の活性化を図っています。豊かな自然や歴史を大切にしながら、空港隣接の立地特性を生かし、未来へ持続的に発展するまちづくりに取り組んでいます。